室根っていいな！

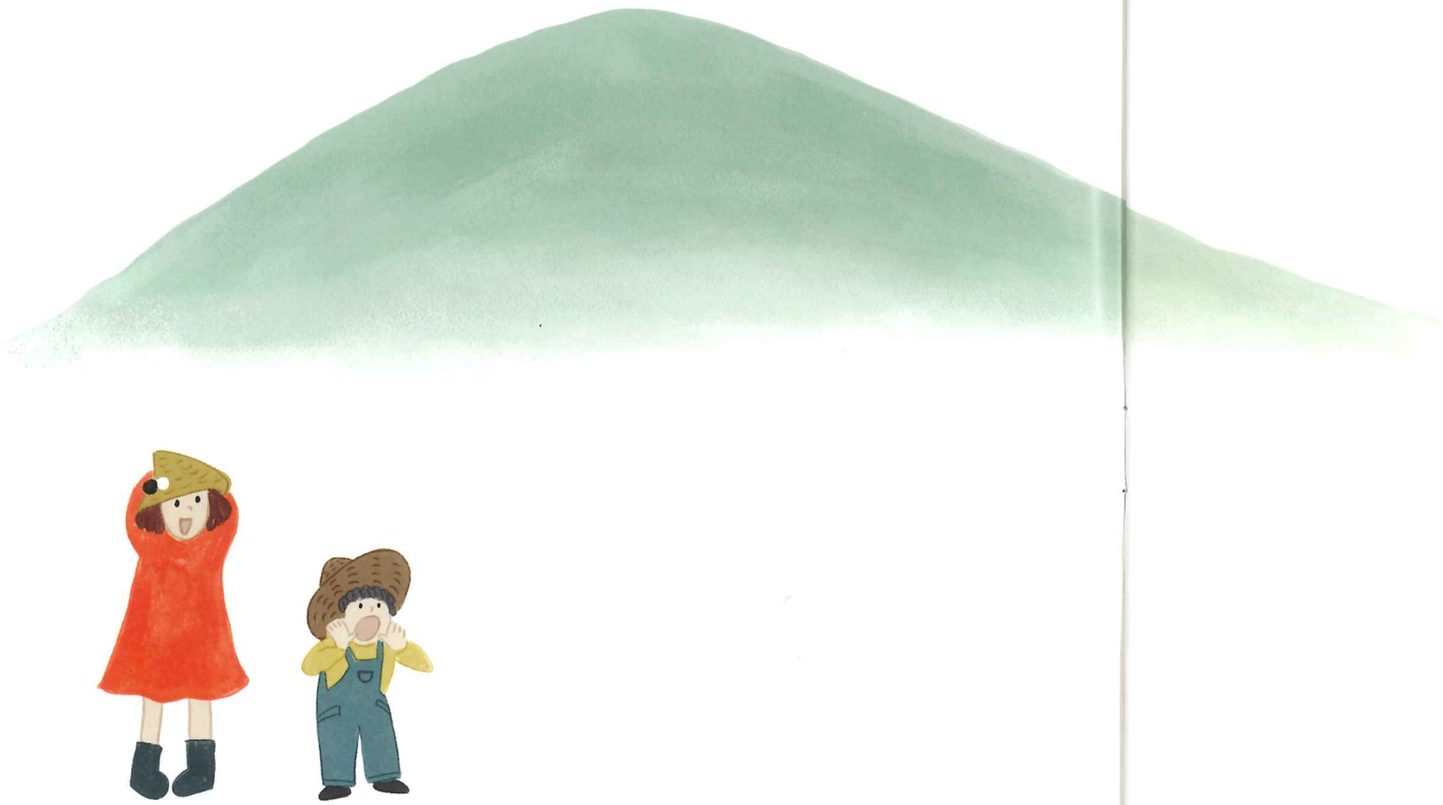
みんなに教えたくなる！

室根町の豆知識 ①

室根まちづくり協議会

自分の住む地域のことを
語れる大人になってほしい。

みなさんは自分が生まれ育った町がどんなところか、お話することはできますか？
もしかすると知っているようで知らないことも多いかもしれません。
みなさんがまだ知らない、昔のことや自慢できることなど、”いろんな室根を紹介したい”という想いから冊子「室根町の豆知識」は誕生しました。
これから先皆さんがどんな道に進んでも、ふるさとを思い出したとき「やっぱり室根っていいな！」と感じられるように、そして室根について知らない人にも「いいところだよ！」と胸をはって紹介できるように、この「室根町の豆知識」を役に立ててもらえる事を願っています。



もくじ

まえがき …… 01
養蚕（ようさん） …… 03
室根からあげ …… 04
室根石と折壁石 …… 05
矢越カブ …… 06
コラム Part_1 …… 07
── 室根地域の成り立ち
── 学校の移り変わり
NHKのど自慢 …… 09
百間堤（ひゃっけんつつみ） …… 10
室根一周駅伝 …… 11
友好都市 …… 12
コラム Part_2 …… 13
── 思い出写真館

養蚕〔ようさん〕

豆知識 01

「養蚕」とは、絹糸を作るため、カイコガの幼虫を飼育してサナギになった時の繭を取る仕事のこと。昔は室根にも養蚕農家があり、エサになるクワの葉を育てながら、さかんに行われていました。元養蚕農家の西城さん親子に当時の様子をお聞きしました。

養蚕に使われる道具を教えてもらいました。

上簇機（じょうぞくき）

厚紙で作ったマス目状の道具にカイコをはわせると、好きな部屋で繭を作り始めます。この機械はカイコが一カ所に片寄らないように重みで回転する仕組みです。

わらだ

卵からかえったばかりの小さなカイコを飼育するための道具。カイコの育ち具合を見ながら、重みでつぶされないようにクワの葉をきざんで与えていたそうです。

◀ カイコの幼虫

▼ 繭の収穫の様子（昔の写真）

年間1トンの収穫を目指し、人手を借りながら作業していました。地域内で質の良い糸をより多く生産できる農家は番付表※1で紹介されました。

※１大相撲の力士の順位表。ここから転じてさまざまなものの順位付けの意味でも使われる言葉。

お話をしてくれた方

元養蚕家
西城 たみ子（さいじょう こ） さん（右）

たみ子さんの息子さん
西城 稔（さいじょう みのる） さん（左）

カイコ糸は自然の素材。カイコ糸からできた絹の着物などは昔から宝物でした。私は、小さいころからカイコの世話を手伝っていて力仕事なども頑張ってきたので90歳を過ぎても元気で過ごせています。あれが嫌い、これはやりたくない、ではなく何でも全力でやってみることが大事だと思います。

室根からあげ

豆知識 02

2018年「からあげフェスティバルNo.1決定戦」で、全国で約1,400店もある唐揚げ専門店の中から初代優勝となった「室根からあげ」。2019年には連覇も果たし、メディアでもたくさん紹介され、日本中に「おいしい室根」をアピールしています。サクサクジュワジュワのおいしい「室根からあげ」はどうやって誕生したんだろう？

からあげを販売するきっかけは…？

創業当時、鶏を飼育する際の鶏舎や飼育方法を学ぶため、長野県へ研修に行った際に食べた「山賊焼（鶏のモモ肉を揚げた長野県の名物）」がとてもおいしく、室根でもこのような名物がつくれないか？ということが開発のきっかけでした。

▼ 惣菜販売を始めた頃の売り場

旧室根村公設センター内〔昭和60年頃〕
※むかし商店街にあった村営のスーパー

▼現在の売り場（道の駅むろね）

室根周辺では室根・川崎・気仙沼に店舗があり、製造しているからあげの量は3つの店頭で販売しているだけでも年間約37トンにもなります！〔2021年度実績〕

お話をしてくれた方

株式会社オヤマ
小山 雅也（おやま まさや） さん

室根からあげは地域が賑わうきっかけになればとの思いから販売を始めました。震災の影響もあり、醤油が変わったりもしましたが、開発当時から変わらない味で皆さんの「あの味が食べたい」になるようこだわっています。自分たちが住むところと素材の産地が同じって安心するし、しかもおいしいなんて最高でしょ？室根に住む人にも地域を離れた人にも、食べたときにはふるさとの味を感じて「室根ってやっぱりいいところだな」と思ってもらえたら嬉しいですね。

室根石と折壁石

豆知識 03

室根で採れる石には、室根町で採掘される石全体をいう「室根石」の他、室根町折壁地区の一部で採掘した「折壁石」があります。東京駅や国会議事堂など、有名な建物にも使われたという、今ではレアな「折壁石」。実は、みんなの周りにも使われていますよ。

折壁石について教えてもらいました。

「折壁石」は岩盤ではなく、風化した後に残ったものなので形が丸いんです。そこからブロック状に切り出しますが、割れやスジがあると商品になりません。きれいな形に切り出すためには「石の目（岩石の割れやすい方向のこと）」を見極める職人の技が重要でした。切り出した石は、馬車で運び、現在の新月駅から貨物列車で岐阜県にある加工場まで運んでいました。

石にはどんな特徴がありますか？

折壁石は年代の古い地層の中で風化して、かたい部分だけが残ったもの。鉄分が含まれているので、磁石を近づければくっつくほどです。

石を採掘している作業風景。お話を聞いた小山さんのお父さんの時代の様子。〔昭和30年頃〕

折壁石が使われている所はありますか？

「道の駅むろね」の壁や、2022年に統合した室根小学校新校舎の昇降口や掲揚台の台座に「折壁石」が使われています。みんなの身近なところにもあるんだね！

お話をしてくれた方

有限会社小山石材店　小山（おやま） 雄幸（ゆうこう） さん

矢越カブ

豆知識 04

室根町の矢越地区の名前がついた「矢越カブ」を知っていますか？室根地域で一度栽培が途絶えてしまったこの野菜。今では日本各地から問い合わせがくるほどの名産品になっています。「幻のカブ」と言われた矢越カブの復活について教えていただきました。

矢越カブってどんなカブ？

熟すとより濃く黄色に色付くカブで、北ヨーロッパのスウェーデンがルーツと言われる野菜です。明治時代に、種を売る矢越地区の行商人が持ち込んだことから室根地域で栽培されました。昭和30年代には食糧事情により室根での栽培が途絶えてしまいますが、気仙沼市大島に種が持ち込まれており、「にんじんカブ・大島カブ」の呼び名で栽培され続けていることが分かりました。小野寺さんがその種を分けてもらい、平成6年より試行錯誤しながら再び室根で栽培するようになりました。

▲地元の地区ではおなじみ
矢越カブのおふかし

スウィード、ルタバガとも呼ばれ、ヨーロッパ地方ではよく食べられているそう。この味を求めて遠くから連絡してくる人もいるのだとか。作り方次第で様々な料理やスイーツに使えるため、「カブぶかし」のほかにもおいしいレシピを研究中。

矢越カブをペーストにした▶
スープは甘くて絶品！

お話をしてくれた方

くつろぎ工房
小野寺（おのでら） 寛（ひろし） さん

矢越カブでもなんでも、ふるさとに何か誇れるものがあればいいと思います。矢越カブはいろいろなめぐりあわせで復活することができました。試験栽培などもして、同じ種でも育てる環境で違いが出ることもわかりました。そういった経験もこれからの人たちに伝え、これから大人になるみなさんにも、自分たちを取り巻く生態系や自然の循環にも目を向けて、自分の生まれた土地を愛する気持ちを持ってもらえたらと思います。

室根地域の成り立ち

現在、みなさんが住んでいるのは一関市室根町です。でも、みなさんが生まれるずっと昔、今の室根町とは地域の形がちょっと違っていたのを知っていますか？室根町がどんな歴史をたどってきたのか学んでみましょう。

江戸時代 1603～

江戸時代後期頃

この頃はまだ今の室根町というひとつの町ではなく、
浜横沢村、上折壁村、下折壁村、釘子村、津谷川村
の５つの村に分かれていました。

明治 1868～

1889
明治22年

町村制の施行（明治の大合併）

浜横沢村と**下折壁村**が合併　**東磐井郡折壁村**（ひがしいわいぐん）へ

上折壁村と**釘子村**が合併　**東磐井郡矢越村**（ひがしいわいぐん）へ

津谷川村は**大籠村**（おおかご）・**保呂羽村**（ほろわ）（現在の藤沢町）と合併　**大津保村**（おおつほ）へ

大正 1912～

昭和 1926

1955
昭和30年

折壁村・矢越村・大津保村の一部（**津谷川地区**）が合併し、
東磐井郡室根村（ひがしいわいぐん）の誕生（当時の人口：9751人）

室根の村章　※室根を表すマークのこと
室根山を中心に、３つの村（折壁村、矢越村、大津保村）がひとつにつながっていることを表している。

平成 1989～

2005
平成17年

平成の大合併
一関市・**西磐井郡花泉町**（にしいわいぐん）・**東磐井郡大東町**（ひがしいわいぐん）・**東山町**
千厩町・**室根村**・**川崎村**が合併　新たな **一関市** の誕生

2011
平成23年

藤沢町が合併し、現在の**「一関市」**となりました。

令和 2019～

学校の移り変わり

2022年、室根東小学校と室根西小学校が統合し、室根小学校が開校しました。学校も地域の形と同じように時代と共に変化してきています。ここでは室根の各地区にあった小学校や、室根中学校について紹介します。

折壁小学校

室根山自然愛護少年団を結成し、室根山の自然を守る活動に力を入れていました。平成21年閉校し、浜横沢小学校と統合。室根東小学校へ。

浜横沢小学校

ソフトボールなどスポーツに力を入れた活動をしていました。平成21年閉校し、折壁小学校と統合後、室根東小学校として校舎を引き続き使用しました。

上折壁小学校

上折壁自然愛護少年団を結成し、植樹祭の参加などを通して地域の自然を守る活動をしていました。平成21年閉校し、釘子、津谷川と統合し、室根西小学校へ。校舎も引き継がれました。

釘子小学校

県下の花いっぱいコンクールで優秀賞を受賞するなど、環境に根ざした活動が活発でした。平成21年閉校。上折壁小学校、津谷川小学校と統合し、室根西小学校へ。

津谷川小学校

「水生生物による水質調査」や「鮭の放流」など、地域の自然に目を向けた活動をしていました。平成21年閉校。釘子小学校、上折壁小学校と統合し、室根西小学校へ。

室根中学校

室根村立折壁中学校、矢越中学校、津谷川中学校がありましたが、昭和46年の統合により室根中学校へ。

※ 写真および校章は平成13年3月31日室根村教育委員会発行「わたしたちのむろね」より引用

豆知識 05

NHKのど自慢

現在でも放送されている「NHKのど自慢」。実は室根町でも開催されたことがあるんです。「どうして室根で？」「どんな人たちが出場したの？」当時、室根村役場でお仕事をしていた千葉さんに、当時の様子や気になるところを聞いてみました。

予選会では各地から300人もの出場希望者が集まり、本番では選ばれた25人が自慢の歌声を披露しました。

どうして室根が会場に？

室根を会場にしたNHKのど自慢は実は、2度も開催されています。初めてののど自慢は昭和42年10月のこと。室根神社特別大祭の協賛行事として開催されラジオでの放送でした。

テレビ収録となった2度目ののど自慢は、昭和62年8月9日、折壁共同アンテナ受信組合が長年にわたり、全組合員の受信料を一括で支払い続けた功績が認められ、室根村立体育館（現在の室根体育館）が完成した記念も兼ねて室根での開催が実現しました。室根地域内外から約4000人もの観客が詰めかけ、完成したばかりの室根体育館は超満員となり会場は熱気に包まれました。

なんと、6ページでお話を聞いた小野寺さんも仕事着を衣装に出場していました。鐘はいくつ鳴ったのでしょうか！？

お話をしてくれた方

旧室根村助役
千葉 繁美（ちば しげよし） さん

今ほど便利な時代ではなく、何をやるにも工夫しながらだったので、何事も大変だったけど楽しかったですね。室根でののど自慢開催のときも、何かと忙しい思いはしましたが、地域が一丸となって室根で開催することができて、やってよかったなあと思いました。今は子どもたちも少なくなってきているようだけど、地域のいろいろなことを知って、誇りや故郷を想う気持ちをもって大きくなっていってもらいたいなと思います。

豆知識 06

百間堤〔ひゃっけんつつみ〕

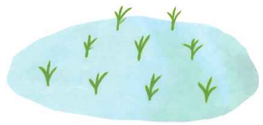
室根地域には、50を超える堤（ため池）があります。その中でもひときわ大きく、周囲の棚田を潤している「百間堤」が津谷川有切（ありきり）地区にあります。その名の通り「百間＝180メートル」を超える大きなため池です。

百間堤について教えてもらいました。

津谷川地区にある太田山(だいたやま)の西側のふもとに10.9ヘクタールにおよぶ「有切棚田（ありきりたなだ）」という段々になった田んぼがあります。その中間に位置する「百間堤」と呼ばれるとても大きなため池は、この棚田に水を引くためになくてはならないものとなっています。また、この棚田とため池のある美しい風景は、農林水産省の「全国ため池百選」（平成21年度）にも選ばれるなど、地域の人たちに永く親しまれています。言い伝えによると、なんと1800年代初頭（江戸時代）に作られ始めたそうです。

収穫できるお米の量を増やすため、小さくて形がバラバラだった田んぼを整える工事の様子。〔昭和40年頃〕

田植えの様子。昔は田植えの時期になると、学校が休みになり子どもたちが田植え作業を手伝うこともあったそう。



お話をしてくれた方

室根町上津谷川自治会
菊地（きくち） 康夫（やすお） さん（左）　**畠山（はたけやま） 比佐夫（ひさお） さん**（右）

昔は棚田も今のような形ではなく、魚のウロコのような形で細かく何枚もあり、千枚田とも呼ばれていました。「百間堤」に水をためて安定した水量を引けるようになったのは、地域の人たちの大きな助けになったと思います。みんなで田植えを手伝ったり、空いた時間で魚釣りをしたり、大変だったけど楽しいこともたくさんありました。これからの人たちには「百間堤」のような「地元にあるけど知らないものや場所」を改めてもっと知ってもらいたいなと思います。

室根一周駅伝

豆知識 07

毎年秋になると室根の町全体が駅伝のコースになります。昭和33年10月に村民の体力向上と親睦を目的として第1回目が開催されてから、60年以上続く室根一周駅伝大会。今ではちょっとした歴史のある行事となっています。

地域全体がサポーター

室根地域の各体育協会対抗で、中学生から大人まで様々な年代の人たちが津谷川～浜横沢間をタスキをつなぎ、ゴールを目指します。中継地点や沿道には地域の人たちが応援に駆けつけます。室根一周駅伝に参加した人の中には、学生駅伝で有名な箱根駅伝の選手も誕生しています。取材した遠藤さんも大学生まで駅伝を続けたそうです。

なぜ室根地域では駅伝が盛んなのですか？

小学校の頃から大会があり、中学校では部活動ではないけれど放課後に練習する環境がありました。小さいころから駅伝が身近にあって、指導してくれる人たちも各地区にいました。次の世代を育成するサイクルができていることがここまで続いている大きな理由だと思います。

大きい都市でのマラソン大会はよくあるけど、室根のように地域全体での開催がこれだけ続いている大会は珍しい！

お話をしてくれた方

フォトグラファー
遠藤（えんどう） 凌平（りょうへい） さん

進学などで室根の外で生活するようになっても、やっぱり地元はホッとできる場所でした。これから進路を選ぶ皆さんには、陸上に限らず、興味を持ったことを頑張ってほしいと思います。失敗することはいっぱいあるけど、そこから人とのつながりや、いろいろなものを吸収することができる。たとえプロにはなれなくても、経験を通じて人間力を高めていってくれたらいいですね。そして、どこに行っても地域を忘れずにいてくれたら嬉しいですね。

室根と交流のある都市

豆知識 08

日本中のいろいろなところに室根と仲のいい都市があるのを知っていますか？どんなところがあるか一緒に見てみよう！

和歌山県 田辺市・新宮市

室根山に熊野（和歌山県）から神様を迎えたという歴史的な縁から、交流が始まりました。田辺市（旧本宮町）は昭和58年に旧室根村と友好都市提携を結び、平成30年には一関市と姉妹都市になりました。新宮市とは令和３年７月に友好都市提携を結び、両方の市と訪問や物産販売などで交流しています。

埼玉県 吉川市

昭和62年、当時吉川市に住んでいた室根出身の小山健一先生が教え子を連れて室根を訪れたことから交流が始まりました。平成9年4月に旧室根村と友好提携を結び、夏は吉川市から室根町へ、冬は室根町から吉川市へ小学生が訪問し、体験学習を通じて交流を行っています。他にもスポーツやイベント時の物産販売など、交流は多岐にわたります。

宮城県 気仙沼市

気仙沼市で毎年開催される「気仙沼みなとまつり」に室根の郷土芸能団体が参加するなど、お互いのイベントに参加し合い交流しています。平成15年には旧室根村と友好都市提携を結び、現在も「気仙沼みなとまつり」に出演し、お祭りを盛り上げています。

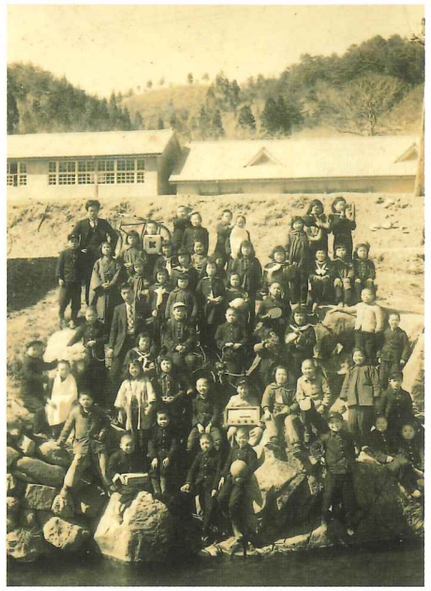
北海道 根室市

平成11年、「室根」と「根室」という逆さ地名が縁となって交流が始まりました。金刀比羅神社例大祭や室根神社特別大祭のときにはお互いの町を訪問したり、イベントの時にはお互いの名産品を地域に紹介したりするなど交流を深めています。

思い出写真館 ― 懐かしのひとコマ ―

室根の昔の暮らしぶりや、当時の街並みの様子が写った写真を地域のみなさんから募集しました。今の時代とはずいぶんと雰囲気が違っていることがわかります。おじいさんや、おばあさんに写真を見せて昔の室根のこと、楽しかったことや大変だったことなど、気になった事をインタビューしてみよう。

暮らしのひとコマ



小学生の集合写真。
楽しそうな笑顔は今も昔も一緒だね。

左上／小学校の入学式。右上／地域の神社のお祭り。左下／昔はお家で結婚式をしたんだって。右下／田植え後のお楽しみ。

仕事のひとコマ

移動製材。大きな機械を使って丸太を板や柱にしたよ。

上／田を耕すところ。昔は馬や牛が機械の代わりでした。下／当時は人の手で田植えをしました。

街並みのひとコマ

上・下／折壁の商店街。（折壁町１丁目）
下／消防団の出初式。

観光のひとコマ

上／蟻塚公園でお花見。すごい人の数だね！
下／つつじの見頃。室根山の山頂付近にて。

みんなに教えたくなる
室根町の豆知識 ❶

2022年12月 発行

〈発行〉
室根まちづくり協議会

〈制作〉
室根まちづくり協議会 文化交流部会

〈取材協力〉
西城 たみ子
西城 稔
小山 雅也
小山 雄幸
小野寺 寛
千葉 繁美
菊地 康夫
畠山 比佐夫
遠藤 凌平
一関市室根友好交流推進協議会
室根・根室交流の会
室根・吉川交流協会
室根・熊野交流の会
※敬称略

〈写真提供〉
西城 たみ子
小山 大進
芳賀 賢一
一関市商工会議所室根支所
一関市
※敬称略

〈引用資料〉
- 「わたしたちのむろね」
  平成13年3月31日 室根村教育委員会発行
- 広報「むろね」縮刷版